

# おおたはるかさん



柔らかいタッチのポートレイトを主に制作する

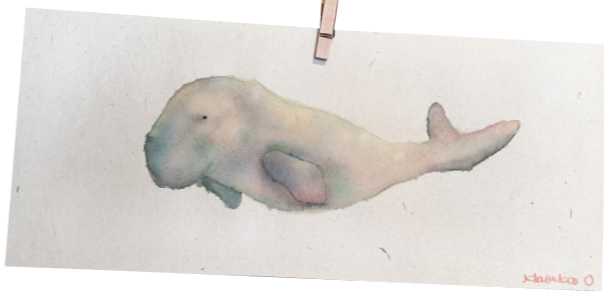
水彩画家のおおたはるかさんは、鳥羽の生まれ。

ふるさとの魅力に向き合い、

おおたさん独自の表現をしている。

## 不安定さと愛らしさで 不思議な世界観をつくる

内気な目をしたサンタクロースとどこか不安げなトナカイで、今号の表紙を飾ってくれたおおたはるかさん。空間には独特のシュールさがあり、不思議な世界観を持つ作品だ。「今までは一点ものしか描いていなかったんです。要素を構成するのを苦手としていたので、初めての挑戦」と、クリスマスをテーマに風景画に取り組んだ。おおたさんが描く人や動物の表情には、愛らしさとあやうさが共存し、唯一無二の魅力がある。オリジナルの色彩がアクセントとなり、見る側の想像も膨らむ。しかし、そういったテイストが万人受けするものではないと、自身の絵を分析している。そのことを悟ったのは、『詩とファンタジー』No.



無機質に感じられる海藻もおおたさんが描くと、温かみのある物体になる

鳥羽水族館の人気者、ジュゴン。色づかいに哺乳類の雰囲気が出ている

的に応募し、東京や大阪で個展を開き、自身の表現を模索し続けてきた。その努力と才能は、さまざまな受賞歴を見ても明らかだ。宇野亞喜良さんなど著名な画家やデザイナーから評価されたことが、絵を描く自信にもつながった。

## 描くことで改めて知る ふるさと鳥羽の魅力

県外での個展は続けるも、卒業後の拠点は三重に定めた。地元のコヒーショップMUSEAでの展示や亀山トリエンナーレにも出品。2019年には鳥羽市立海の博物館で、鳥羽の産物である海藻をモチーフにした展覧会「かいそう画おおたはるか」を開いた。画材に伊勢和紙を使い、ヒジキやムカデノリ、アカモクなどの水彩画29点を並べた。地域でつくられる和紙とコラボすることで、水彩の柔らかくなじみが効果的となり、優しい質感に仕上がった。海藻を描くのは初めてのことで、知識を得るために鳥羽市水産研究所で実物の海藻を観察した。「船に乗せてもらって鳥羽湾を間近に見て、海藻博士に借りた資料や図鑑、標本から海藻の特徴をつかみました」。忠実に再現することを意識しながらも本来の海藻にはない独自の配色が織り込まれ、おおたさんらしさが出ている。鳥羽の海への見解も深まり、ずっと暮らしたふるさとに新しい視点も持てたといい。

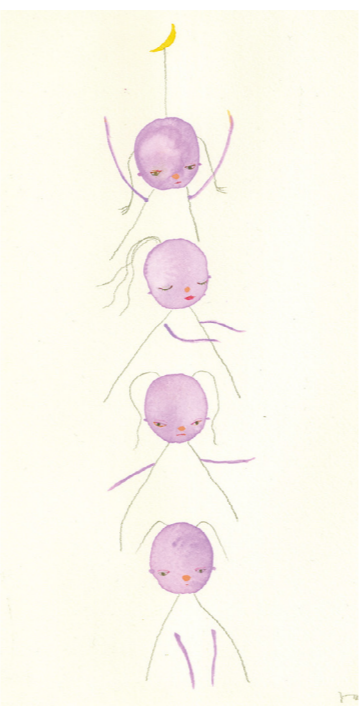
2020年は、伊勢和紙ギャラリー

35で挿絵の依頼があったこと。『春眠』という、とても共感できる楽しい詩に、ピンクの女の子を提出したのですが、やり直しがでて。自分ではかわいいと思っただけで、客観的に見ると、最初の顔では挿絵として合わなかった。人の思うかわいさを意識して描き直して、仕事としてそういうものなんですよね」と思い返し、臆することなく笑う。作家として、個展のために描くのと、依頼に応えるのでは違いがある。個性を出しつつも、それが自己満足で終わってはいけなさと気付いた。

23歳で入賞した絵が編集者の目に留まり、書籍の表紙を飾った。そこから6年、さまざまな依頼を受けることで、絵の幅が広がるのも感じている。

## 最初は洋画コースへ進学 基礎を学び楽しさを知る

祖父は画家で、母も絵画教室へ通い、幼い頃から絵が身近にある環境で育ったおおたさんだが、本格的に美術と向き合ったのは、奈良芸術短期大学に進んでから。洋画コースで基礎を学ぶと、描くことの楽しさを知り、専攻科コースへと編入。卒業後はアートスクール大阪で絵本コースにも通った。「学生の頃は卒業するまでに結果を残さないと、と必死でした」と、在学中からイラストレーターへの登竜門といわれるコンペに積極



「巨峰のダンス」一粒一粒の繊細な表情やリズムカルな動きに、思わずグスッとさせられる



右) 2019年3月、アトリエ三月 (大阪) での個展「にちじょう図鑑」 左) 2019年3月、鳥羽市立海の博物館での鳥羽うみアートプロジェクト「かいそう画おおたはるか」

考えたのですが、目を閉じてみたら案外かわいくて。スリーピングガリバーです」。おおたさんがお気に入りの肌の特徴が表現されている。鳥羽市観光協会が発行する『Toba Seaweed Stories』では、表紙のイラスト・デザインとギャラリーページ、海藻の描き方のページを担当した。「このような取り組みに携われてうれしです。海藻っておいしいだけじゃなくアート要素もある生き物。それを伝えられたら」。自分の作品が一つの媒体となって多くの人に伝わることに、喜びを感じている。

さまざまなモチーフに独自の色彩を融合させて、自分だけの世界観を築き上げのおおたさん。最近では、岩絵具を使い始めた。日本画には欠かせない鉱物を砕いて作られる顔料を、水彩絵の具と組み合わせているという。「のめりこんでしまうタイプなので、いろいろ試してみないと」と、柔軟に表現の幅を広げている。



2020年11月、伊勢和紙ギャラリー(伊勢)でのおおたはるかさん個人展「portrait」と「鳥羽図鑑」。二つの会場を使い分けて展示を行った。「鳥羽図鑑」には約50点が並ぶ

